

平成 23 年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」

共同利用型の研究成果報告

申請者： 木寺律子（同志社大学非常勤講師）

2011 年夏と 2012 年春に合計 2 回スラブ研究センターに滞在して資料収集を行った。2 度目の滞在時にはスラブ研究センターセミナーとして、『おとなしい女』と『おかしな男の夢』：『作家の日記』における「論理的自殺」の問題」という研究発表を行った。資料収集のみでなく研究発表もできたのは、大変ありがたいことであった。さらに 2 度目の滞在は西スラブ学会や他のさまざまなセミナーの開催時期と重なっていたので、こちらでの研究発表も多少聞くことができた。

1 度目の滞在ではドストエフスキー文学の先行研究を、2 度目の滞在ではドストエフスキーと同時代のスラブ派や西欧派の思想家の研究書を中心に資料収集を行った。スラブ研究センターにはドストエフスキー文学の先行研究も、ドストエフスキーと同時代の思想家たちについての研究書も豊富にあり、2 回の滞在で十分に資料を収集できたとは言えないほどである。別の機会に再びスラブ研究センターを訪問して資料収集したい。

申請者は 2011 年 5 月にロシアのスターラヤ・ルッサのドストエフスキー学会で研究発表を行い、論文「Воспоминание об умершем брате в произведениях Достоевского」をスターラヤ・ルッサの論文集「Достоевский и современность」に投稿して、採用が決まっている。この論文集は 2012 年 5 月に発行される予定である。2011 年夏にはウクライナのサキの学会で発表原稿を代読してもらい、このテーマでの論文「Звезды и цветы в романе «Братья Карамазовы»」は論文集「Формування аксіологічного компоненту у процесі професійної підготовки майбутніх педагогів: матеріали міжвуз.наук.-практ. конф.»に掲載された。2011 年秋にも北京の国際ドストエフスキー学会で同じテーマで発表した。これらが、今回の共同利用と関連する、当面の研究成果である。

なお、申請時のテーマは「ドストエフスキー文学におけるシラーの影響」であったが、申請者が実際に本年度中に行った研究はこのテーマとは多少異なるものとなり、シラーの影響については「Воспоминание об умершем брате в произведениях Достоевского」で部分的に言及するにとどまった。ドストエフスキー文学においてシラーの影響が重要であると考えていることに変わりはないので、このテーマでの研究を今後も続けたい。

最後に、このような貴重な機会を下さったスラブ研究センターの方々に感謝の意を記したい。